

海外研修トピックス

◇ギャヤトゥリデヴィ小学校視察(8月11日)



子どもたちが出迎えてくれました

1994年に設立された村の小学校を視察しました。
この学校は、途中閉鎖に追い込まれたこともありましたが、現在はコミュニティとの協力で運営されています。

【参加者感想】

水道がなく、水がめに入れた水を、くちをつけずにうまく飲む子どもたち。トタンの屋根、電灯のない教室に子どもたちがぎゅうぎゅうになって座っている。先生たちは、貧しくてやめてしまう子どもの親にノートや制服を持って行って、学校に来させるように説得する。まずは、中学校までがんばらせようと計画を立てている。小さな村の学校がコミュニティと結束して努力している姿や、子どもたちが一生懸命学ぶ光景に、感動せずにはいられなかった。

◇マナバ養護学校、マノハラ小学校視察(8月12日)



目を輝かせて話を聞いてくれました(マノハラ小学校)

26人の学生(知的障がい者)が学ぶ自立支援のプログラムを実施しているマナバ養護学校を視察しました。
この養護学校では青年海外協力隊員も活動していました。

【参加者感想】

学校に入る前、水をくんでいる少女と出会った。
写真を撮らせてもらおうと、その子が養護学校の生徒であることが判明した。終始笑顔を見せて学校に入っていくのが印象的だった。

◇ラブ・グリーン・ネパール事務所訪問(8月13日)



次々に質問する女生徒達

女子の識字率向上と、自立を目的としたセンターを見学しました。
開設当初女子10名しかいませんでしたが、現在は160名が奨学金を得ながら勉強しています。

【参加者感想】

奨学金制度によって教育を受ける機会を得る重要なポイントとなっているようだ。奨学生達の物静かだが堂々とした態度から、教育が格差を解消する一つの手立てとなっていると感じた。

◇ラトバンガラ高等学校訪問(8月14日)



図書室の様子

ネパールでベスト8に入る有名私立校を視察しました。
学校の設備も整っており、図書館の書籍も豊富でした。

【参加者感想】

ネパールの将来を担っていくリーダー的存在になる生徒の多くが、政情不安や就職すべき企業不足という理由で海外に留学したまま帰国しないという問題もあるということを知って複雑な気持ちになりました。

◇ミトラ小学校訪問(8月14日)



元気に運動する子供たち

ネパールの子どもたちとの交流授業を実施しました。
この学校は幼児クラスが110名と児童の大半を占め、年齢が上がるにつれよりレベルの高い学校に転校するというので4、5年生は11人と非常に少ない学校でしたが、交流授業で日本を紹介したところ英語で活発に質問してくれました。

【参加者感想】

昼食時間、教師がいない中学生だけで丁寧に祈りをしてから食べる姿が印象的だった。

ヒンズー教の神様の絵をどの子も何も見ずに！さらさらと描き上げて説明してくれました。

◇ネパール人家庭にホームステイ(8月15日)



家族団楽の時間

カトマンズ市内のネパール人家庭に滞在し、宗教に根ざした生活習慣や食生活、家族構成、住宅の様子などを体験しました。

【参加者感想】

短い期間ではあったが、ホストファミリーたちみんなの心の温かさに触れた。子どもたちのヒンドゥー教や仏教についての知識の豊富さに驚愕した。彼らにとって宗教は生活の一部であり、幼い頃から、家族をはじめとする周囲の人々から教え込まれているのだそうだ。

◇マンガラ高等学校 文化交流(8月17日)



勉強する姿は真剣そのもの!

JICAボランティアの案内で校長先生にネパールの教育問題についてじっくりと聞くことができました。国際基準にあった教育をすることを目指していると語る校長先生に一同真剣に耳を傾けました。

【参加者感想】

自分自身より若い校長先生だったが、教育に対するの信念をしっかり持ち、より理想的な教育に向けて歩んでいる姿が印象的だった。日本とネパールの環境や風俗・習慣などの違いはたくさんあるけれど、子どもたちのよりよい未来に向けて歩む姿や、児童・生徒たちに懸ける思いは同じだなあと感じた。

